

# 高齢期を考える

東京大学教育学部附属中等教育学校

実施学年：4年（高校1年） 実施時間数：6～7時間  
 生徒数：120人（3学級）  
 実施教科：（学校設定科目）健康・生活（保健及び家庭科合わせたもの）



高齢者のイメージをランキング



高齢者インタビューのレポートをグループ内で発表



図書館での調べ学習とまとめ



説明

## 学習のねらい

1. 急速に高齢化が進む現状を理解する。
2. そのような状況に対処するために、社会基盤の整備やコミュニティ作りの重要性を理解する。
3. さまざまな分野と関連する超高齢社会の課題を自分たちでみつけ、解決策を考える。
4. 高齢社会の問題は、自分たちと関わる重要な事柄であることを理解する。

## 学習活動

### <高齢期を考える>

1. 高校生のイメージする高齢者を共有し、自分たちにとっての高齢者を知る。（話し合い）
2. 身近な高齢者にインタビューをする。（インタビュー）
3. 高齢者インタビューを共有し、高齢者について考え直す。（発表）
4. 高齢者や高齢社会について理解する。（講義）
5. 高齢社会における課題の現状と解決策について調べ、まとめる。（調べ学習）
6. 結果の共有とまとめ（ポスターセッション、まとめ学習）

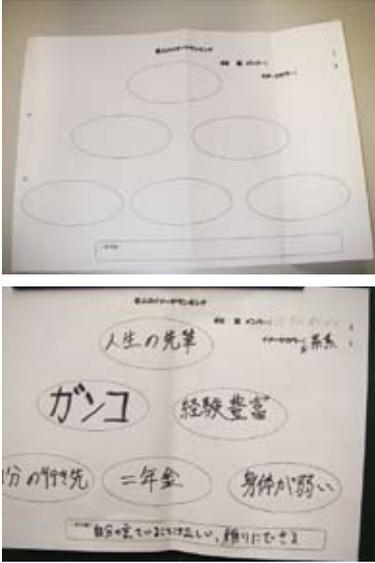
## 準備品

- ・ 高齢社会に関連する資料、図書、パンフレット
- ・ パソコン
- ・ 発表用紙、マジックペン、プリンター
- ・ 教科書、ワークノート、プリント

## 実施場所

- ・ 教室
- ・ 図書館

# 学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>15分</p>	<p>高齢者のイメージ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次週から高齢期について学ぶことを伝え、高齢者のイメージを挙げさせる。</li> <li>2. ランキングの手法を用いて、上位6つを選び、グループごとにA3の用紙に記入する。 上位には入らなかったが、発表したいものは番外編に書く。 合わせて、老人のイメージカラーも記入する。</li> <li>3. クラス全体で確認する。</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちとは関係ないと考えている。</li> <li>・興味本位、思いこみで否定的なイメージを書いているグループが多い。</li> </ul>
<p>教室</p> <p>1時間</p>	<p>高齢社会の現状</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プリントを用いて、言葉の定義や現状を理解する。 人口区分や高齢社会の定義 日本の人口ピラミッド 高齢化率の推移 高齢者の経済状況、雇用、要介護者の割合 など</li> <li>2. 高齢化が急速に進んだ理由と問題点を理解する。</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているつもりでも、あいまいになっている高齢者に関わる言葉の定義を理解できた。</li> <li>・日本の現状が厳しいことに気づいた。</li> <li>・自分たちが人口構成上どのような位置にあるかを知った。</li> </ul>
<p>教室</p> <p>1時間</p>	<p>高齢者インタビュー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 冬休みの宿題として出されていた高齢者インタビューの結果を報告し合う。 質問項目は <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生のころの思い出、</li> <li>・今まで一番印象に残っていること</li> <li>・今の生活について</li> <li>・高校生に伝えたいこと</li> </ul> の4つである。 まず、グループ内で発表し合い、その後クラス全体で、戦争、家族との関係、幸せなどキーワードに基づいて、それぞれのインタビュー結果を出し合った。</li> <li>2. 再度、最初に行った高齢者のイメージを貼りだし、感想を聞いた。</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、祖父などからこのような話を聞く機会がなかったので、得るところが多かった。</li> <li>・今の恵まれた生活を改めて見直した。</li> <li>・お年寄りにも自分たちと同じきもちで過ごした青春時代があることに気づいた。</li> <li>・お年寄りの経験を踏まえたメッセージに感動した。</li> <li>・自分たちの高齢者に対する考えを改めた。</li> </ul>



## 生徒の作品



## 先生の声

実施に当たり工夫した点  
苦労した点

- 日常生活では、高齢者に接することがない生徒も多く、高齢者のイメージがなかった。また、自分たちが将来高齢者となるという現実感もなかった。そのため、自分たちの生活とつなげたり、自分たちに関わる問題と気付かせるアプローチが必要であった。
- 年をとることにマイナスイメージを持っている生徒も多く、将来への課題を否定的に考えないように、また、自分たちが将来の選択権をもっているという積極的な方向へ雰囲気を持っていくための仕掛けが必要であった。

児童・生徒の反応

- マイナスイメージや自分たちと関係ないと考えていた生徒たちが、高齢者を素晴らしいと考え直したり、人とのつながりの大切さに気づくなどの変化が見られた。
- これらの問題を解決するためには、制度の改善とともにまち作りやコミュニティなど人がかかわったソフト面が大切であることにも気づいた。
- 老化などの心身の変化に対応するための住宅設備、公共施設のバリアフリーやユニバーサルデザインといった住まいに関わる要素の充実の必要性にも気づいた。

教師の変化  
(担当、担当外を含めて)

- 住生活分野の様々な要素が、これからの暮らしやすい超高齢社会に重要であることを改めて感じた。
- 図書館や他教科と連携をとることで、家庭科授業への理解が進んだ。授業にも厚みが出て、充実させることができたと感じる。
- 高齢者の問題を医療、介護といった分野に分けて考えるのではなく、まち、コミュニティといった面から総合的に考えていくことの大切さを感じた。
- そのためには、総合的に学べる研究会などにもっと参加したいと思った。

## その他

- 住まいの中でまちづくりやコミュニティを考えるのではなく、高齢者の分野から切り込んだことで、発想が広がった授業ができました。調べ学習を充実させるため選書を図書館にお願いし、図書館と連携した授業を行うことができました。今年度は日程の関係で、介護施設の方のお話を聞くことが出来なかったが外部講師を招いての授業も行いたかったです。